

総合科学部移転記念式典開催される

祝賀会に東広島市長など三百五十名が参加

総合科学部 数理情報科学コース 江口正晃

去る四月二十四日（土、午前十時～十一時）、あいにく強い風が吹き荒れ、雨が降り始めるという悪天候の中、名誉教授、先輩教職員、大学関係者、また、東広島市長をはじめとする地元住民代表多数を迎えて、総合科学部移転記念式典が新装なる総合科学部南講義棟大講義室で開催された。まず、戸田吉信総合科学部長から、参加諸氏への礼とともに、次のような主旨の挨拶があつた。

①移転の計画は延びにのびて、苦節二十年、やっと長年の願いがかなった。ここに移転を完了することができた。計画と実施にかかわられた多くの関係者の方々に感謝の意を表したい。

②移転の遅延によって、東広島市の皆さんに多大の迷惑をかけてきたことへのお詫びを申しあげたい。③恵まれた環境のもとで、教育と新たな知の探求に力を尽くし、総合大学としての大学づくりを行い、市民とともに東広島市を作り、大学都市として発展させたい。これにつづいて、讃岐照夫東広島市長から、総合科学部の移転完了を祝う、あたた

かい歓迎の祝辞がのべられた。また、佐々木和夫学長代理（工学部長）が大学と東広島市との協力関係の進め方にについてのべ、寛容につき合いをいただき、地道な話し合いと協力関係によって全国の模範となるような大学都市作りを目指したい、と挨拶された。

あと、移転学部を代表して西川恭治学部長、および洲崎敏伸総合科学部同窓会長から祝辞がのべられた。



「感無量」の思いをこめて挨拶に立つ戸田吉信学部長



東広島市郷土の会有志による太鼓演奏

移転作業を終え、新しい建物で教育研究ができるという喜びに満ちあふれた総合科学部教職員は勿論のことであるが、大学の移転決定後、自分達自身が移転をして、新しい環境の下で研究教育ができるものと信じて、その計画のために多くの貴重な研究時間を割いてくださつた先輩の先生方には、格別の感慨があつたに違いない。記念式典の後、新しい建物の内部を見ていただきながら交わされる会話の中から、そのことが感じられた。

引き続いて、新装の西福利会館で三百五十名をこえる多数の参加者を得て、鏡割り、祝い唄、郷土芸能（次郎丸太鼓演奏）などのプログラムのもと、盛大に祝賀会が開催された。

事務は企画調査課の広報調査係が担当いたします。
一同張り切つて面白い記事を迅速にお伝えできるよう努力いたします。
学内のニュース、特ダネ、面白い企画など、広報委員宛にぜひお寄せください。

本誌二十五期を担当する広報委員は次のとおりです。

伊藤詔子（総合科学部）

越智貢（文学部）

今泉信人（教育学部）

若元澄男（学校教育学部）

小田直樹（法学部）

石田三樹（経済学部）

平田敏文（理学部）

辰巳淳（医学部）

長坂信夫（歯学部）

山谷洋二（生物生産学部）

早川式彦（原爆放射能医学研究所）

難波紘二（委員長、総合科学部）

堀越孝雄（副委員長、〃）

大濱紘三（学生委員会委員、医学部）

田邊誠（教務委員会委員、法学部）

小平胖可（厚生委員会委員、学校教育学部）